

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
28-91	高等学校	国 語	現代文B	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
2 東書	現B 322	精選現代文B		

1.編修の基本方針

①近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高める。

- 近代以降の文章の中から、「小説」「評論」「随想」「詩」「短歌」「俳句」を取り上げ、的確に理解するためのポイントを「学習の手引き」に示しました。
- 「言語活動編」に設けた「メディアの特色を生かして表現する」「図表から情報を読み取って論じる」「課題を設定して調べた成果をまとめる」などの学習を通じて、適切に表現する能力を高められるようにしました。

②文章を読んで、ものの見方、感じ方、考え方を深め、内面を豊かに形成する。

- 「言語活動編」に設けた「文学的文章を読んで話し合う」「論理的文章を読んで意見文を書く」「複数の観点を生かして理解を深める」などの学習を通じて、文章を読んだ後に、ものの見方、感じ方、考え方を深められるようにしました。
- 書き手の意図や、人物、情景、心情の描写などを的確に捉えたり、表現を味わったり、また文章を批評的に読むことによって、人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりできるよう、各教材末に「表現と言語活動」などの項目を用意しました。

③進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。

- 生徒の読書意識を喚起し、読書の幅を広げられるよう、附録「読書案内」で、評論・小説単元の全教材について、筆者・作者やジャンル・テーマに関連した図書を紹介しました。
- 本に対する関心を高めたり、本について考えたりするため、本をテーマにした小説「旅する本」(I部「2小説1」)、本の在り方について論じた評論「おじいさんのランプ」「書物の近代」「読み書きする身体」(I部「5評論3」)及びこれら3教材に関連したコラム「文章を読み比べるために」、巻末資料「さまざまな本のかたち」を掲載しました。

2.対照表

図書の構成・内容		特に意を用いた点や特色	該当箇所
I 部	1 評論1	・シャーロック・ホームズなどの例を通して、学ぶことの意味を論じる評論を用意しました。(第1号)	→8~14ページ
		・ミロのヴィーナスの鑑賞を通して、そこに普遍的な美を感じる理由を考察する評論を用意しました。(第1号)	→15~21ページ
	2 小説1	・人間が虎に変身するという特異な状況の中での、主人公の内面と苦悩について描く小説を用意しました。(第1号)	→24~37ページ
		・人から人へと受け渡されてゆく、ひとりでの姿を変える不思議な本についての小説を用意しました。(第2号)	→39~47ページ

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
3 評論2	<ul style="list-style-type: none"> ・相対的な自己把握をするという特徴を持つ日本語と、日本人の持つ自我の構造についての関係を考察する評論を用意しました。(第5号) ・事実を観察するという行為は、観察時の状況や観察者の持つ背景知識によって左右されることを述べる評論を用意しました。(第1号) 	<p>→50～59ページ</p> <p>→60～66ページ</p>
4 詩歌	<ul style="list-style-type: none"> ・「竹」、「永訣の朝」など、高校生の情操を培うのにふさわしい詩・短歌・俳句を用意しました。(第1号) 	→68～86ページ
5 評論3	<ul style="list-style-type: none"> ・人間と情報の関係が大きく変化した現在、かつて本が担っていた機能を更新させる方法を考えなければならぬと述べる評論を取り上げ、更にテーマの関連する評論を2本用意しました。(第1号) ・スポーツとメディアの関係を通して、社会におけるスポーツの在り方を考察する評論を用意しました。(第1号) 	<p>→88～102ページ</p> <p>→105～114ページ</p>
6 小説2	<ul style="list-style-type: none"> ・「お嬢さん」をめぐる出来事によって変化する「先生」や「K」の心情を、「先生」の視点から描いた小説を用意しました。(第1号) 	→116～147ページ
7 評論4	<ul style="list-style-type: none"> ・「する」価値と「である」価値という原理が、日本社会の諸問題を分析するうえで有効であることを述べる評論を用意しました。(第3号) ・科学技術を利用して短期的な欲望を満たし続けていくと、人間社会の長期的な存続可能性が損なわれると論じる評論を用意しました。(第3号)(第4号) 	<p>→150～163ページ</p> <p>→164～173ページ</p>
8 小説3	<ul style="list-style-type: none"> ・馬車に乗り合った人々と、その人々に起こる不条理な出来事を、特徴的な視点から描写した小説を用意しました。(第1号) ・留学中の出来事や、「藤野先生」との交流を通して変化する主人公の心情を描く小説を用意しました。(第5号) 	<p>→176～185ページ</p> <p>→186～196ページ</p>
9 評論5	<ul style="list-style-type: none"> ・日本人の伝統的で独自の美への感受性が、現代の我々の生活や行動に生き続けていることを述べる評論を用意しました。(第5号) ・中世ヨーロッパで作られた地図を例に挙げながら、地図とは、異なる世界像を持つ人々の、世界に対する異なる理解を表現していると述べる評論を用意しました。(第1号) 	<p>→198～211ページ</p> <p>→212～218ページ</p>
1 評論1	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストを読むとはどのような行為なのか、どのようにすれば人はテキストと豊かな関係を築くことができるのかを説く評論を用意しました。(第5号) ・言葉によって世界が分節され、事物が生み出されることから、言葉が私たちの意識を形成し、世界を創造する根源となると論じる評論を用意しました。(第1号) 	<p>→222～230ページ</p> <p>→231～238ページ</p>
2 小説1	<ul style="list-style-type: none"> ・青年の瞬間ごとに変化する心の不可思議さ、その中で体験される美の衝撃を描く小説を用意しました。(第1号) ・ある一軒の家に対して抱く登場人物の気持ちやその変化を、かつて自分の描いていた未来への思いなどと重ね合わせながら描く小説を用意しました。(第1号) 	<p>→240～250ページ</p> <p>→251～259ページ</p>
3 評論2	<ul style="list-style-type: none"> ・近代科学の自然観には、生態系の維持と保護に反する発想が含まれており、それによって環境問題は生じてきたと述べる評論を用意しました。(第4号) ・現代社会を生きる私たちは、異世界を知ることで現代社会の「〈自明性の檻〉」から解放され、新しい社会をつくる可能性を探ることができると説く評論を用意しました。(第1号) 	<p>→262～269ページ</p> <p>→270～279ページ</p>
4 随想	<ul style="list-style-type: none"> ・人間らしく生きるとは何かという問題が提示された本と、その本を読んだ筆者の人生を重ね合わせるように述べる随想を用意しました。(第2号)(第3号) ・ある言葉と本当の意味で交わることができれば、人は困難を生き抜くことができると述べる随想を用意しました。(第2号) 	<p>→282～291ページ</p> <p>→292～296ページ</p>

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
5 評論3	・社会・文化が壊れないためには、民主制と立憲制という理念、そしてそれを下支えする寛容の精神、煩雑さへの耐性といったものが求められることを述べる評論を用意しました。(第3号)(第5号)	→298～306ページ
	・「悟りとはどんな時でも平気で生きていくこと」という境地に達した正岡子規の生き方を論じた評論を用意しました。(第2号)	→307～315ページ
	・明治時代の知識階級の青年を通して、自我の目覚めとその挫折の苦悩を描く小説を用意しました。(第1号)	→318～353ページ
	・「他我問題」「外界問題」と区別して「他者性の問題」「実在性の問題」を提起し、言葉を介して「他者」や「実在」に近づけるのではないかと論じる評論を用意しました。(第1号)	→356～363ページ
	・原始社会においても、環境への負荷に対する対応を誤り深刻な結果がもたらされた例などを挙げて、原始社会をありのままの姿で捉える必要性を説く評論を用意しました。(第4号)	→364～371ページ
8 小説3	・強制収容所に連行されたユダヤ人の祖父を持つ「わたし」が、祖父の背負った過去の意味を捉え直していく小説を用意しました。(第5号)	→374～390ページ
9 評論5	・ボールゲームのゴールの数とルールの違いから近代資本主義の変容について論じる評論を用意しました。(第1号)	→392～407ページ
	・他者に対する暴力は人間が持つ虚栄心に起因するとして、欲望的存在である自己の在り方を変容させる倫理的努力が必要であると説く評論を用意しました。(第2号)(第3号)	→408～417ページ
言語活動編	・小説の人物の生き方について考えたことを、本文の表現に基づきながら主体的に話し合う教材を用意しました。(第3号)	→420～421ページ
	・美意識について書かれた評論を例に、評論の論理展開について検討し、意見文を書く教材を用意しました。(第5号)	→422～429ページ
	・メディアの特色を理解し、自分の読んだ本について、ポップや帯、図書館便りに載せる本の内容紹介文などを作る教材を用意しました。(第1号)	→430～433ページ
	・地球温暖化問題などを例に、複数の図から情報を読み取って論じる教材を用意しました。(第4号)	→434～439ページ
	・一つのテーマについて、複数の異なる観点から見た他者と意見を交流し、自分の考えを深める教材を用意しました。(第1号)	→440～443ページ
	・ごみ処理やリサイクルの実態と問題点を例に、課題を設定して、調査したことを報告書にまとめる教材を用意しました。(第4号)	→444～448ページ

3.上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- 附録には「評論読解へのアプローチ①～③」、「読書案内」、「日本 近代 現代 文学史年表」、「明治の終焉と夏目漱石」、「明治の留学生」、「さまざまな本のかたち」を用意し、多様な指導に対応できるようにしました。(学校教育法第51条2号)
- コラムとして、「思考への扉」(6か所)、「文学への扉」(4か所)、「文章を読み比べるために」、「図像を読み解くために」を設け、単元や教材で学習した内容を深めたり広げたりできるようにしました。(学校教育法第51条3号)

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
28-91	高等学校	国語	現代文 B	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		
2 東書	現 B 322	精選現代文 B		

1.編修上特に意を用いた点や特色

①**目標**…近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てるという「目標」に示された能力を養うため、学習が効果的・有機的に行えるように配慮しました。

②内容

(1)

ア：文章の構成、展開、要旨などを的確に捉える助けとなるよう、「学習の手引き」を教材末に示しました。また、複数の文章を比較して分析し、自らの考えを深める際の参考となるよう、コラム「文章を読み比べるために」を設けました。

イ：書き手の意図や、人物、情景、心情の描写などを的確に捉える助けとなるよう、「学習の手引き」を教材末に示しました。また、表現を味わう際の参考となるよう、コラム「文学への扉」を設けました。

ウ：評論教材においては、人間、社会、自然などに関する諸問題について論じた文章を掲載し、「目次」にはそれぞれのテーマを示しました。また、自分の考えを深めたり発展させたりする助けとなるよう、コラム「思考への扉」、附録「評論読解へのアプローチ①～③」を設けました。

エ：収集したさまざまな情報を分析、整理して資料を作成したり、自分の考えを効果的に表現したりする教材を、「言語活動編」に設けました。

オ：語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにする助けとなるよう、掲載教材に「注意すべき語句」を適宜示しました。また、教材末に「漢字と語彙」を適宜設け、学習すべき漢字や語彙を挙げました。

(2)

ア～エ：「言語活動編」として、活動の具体的な方法を解説した教材を設けました。更に、I部・II部の教材末には「表現と言語活動」を適宜示し、「言語活動編」と関連して指導できるよう配慮しました。

③内容の取扱い

・話すこと・聞くこと、書くこと及び読むことについて相互に密接な関連を図り、効果的に指導できるように配慮しました。「言語活動編」では、「文学的文章を読んで話し合う」で「山月記」を例とするなど、「読む」教材との相互関連を適宜図りました。

・生徒の読書意欲を喚起し、読書の幅を一層広げ、文字・活字文化に対する理解が深められるよう、単元扉に掲載教材に関連する本のタイトルを示し、附録の「読書案内」でそれらの本をまとめて紹介しました。

・近代以降の文章や文学の変遷について必要に応じて扱えるよう、巻末に「日本 近代 現代 文学史年表」を設け、教材として取り上げた作品に網掛けを施しました。

・現代の社会生活で必要とされている実用的な文章として、「言語活動編」の「課題を設定して調べた成果をまとめる」で新聞記事を取り上げました。また、近代以降の文語文として、短歌・俳句、「舞姫」を取り上げました。

2.対照表

単元	教材名	(1)指導事項との対応					(2)言語活動例との対応				頁
		ア	イ	ウ	エ	オ	ア	イ	ウ	エ	
I 部											
1 評論 1	世界をつくり替えるために	○				○					8
	ミロのヴィーナス	○				○					15
	思考への扉1	○		○							22
2 小説 1	山月記		○			○	○				24
	旅する本		○			○	○				39
	文学への扉1		○	○		○					48
3 評論 2	相手依存の自己規定	○		○		○				○	50
	科学的「発見」とは	○				○					60
4 詩歌	見えない季節		○			○					68
	未確認飛行物体		○			○					70
	竹		○			○					72
	永訣の朝		○			○					74
	牡丹花は——短歌抄		○			○					80
	プラタナス——俳句抄		○			○					84
5 評論 3	おじいさんのランプ	○		○		○		○			88
	書物の近代	○		○		○		○			96
	読み書きする身体	○		○		○		○			100
	文章を読み比べるために	○		○		○					103
	消費されるスポーツ	○		○		○		○			105
6 小説 2	こころ		○			○	○				116
	文学への扉2		○	○		○					148
7 評論 4	「である」と「する」こと	○				○					150
	人間の運命と科学	○				○					164
	思考への扉2	○		○							174
8 小説 3	蠅		○			○	○				176
	藤野先生		○			○			○		186
9 評論 5	日本人の美意識	○		○		○		○			198
	地図の想像力	○				○					212
	図像を読み解くために			○	○						219

単元	教材名	(1)指導事項との対応					(2)言語活動例との対応				頁
		ア	イ	ウ	エ	オ	ア	イ	ウ	エ	
Ⅱ部											
1評論1	文学の未来	○				○					222
	言語と記号	○				○					231
2小説1	檸檬		○			○	○				240
	スペインタイルの家		○			○					251
	文学への扉3		○	○		○					260
3評論2	環境問題と孤立した個人	○				○					262
	鏡の中の現代社会	○				○					270
	思考への扉3	○		○							280
4随想	クレールという女	○	○			○					282
	言葉を生きる	○	○			○					292
5評論3	社会の壊れる時 ——知性的であるとはどういうことか	○		○		○				○	298
	平気——正岡子規	○		○		○					307
	思考への扉4	○		○							316
6小説2	舞姫		○			○	○				318
	文学への扉4		○	○		○					354
7評論4	他者の声 実在の声	○				○					356
	原始社会像の真実	○				○					364
	思考への扉5	○		○							372
8小説3	トランジット		○			○	○				374
9評論5	サッカーにおける「資本主義の精神」	○		○		○		○			392
	抗争する人間	○				○					408
	思考への扉6	○		○							418
言語活動編	文学的文章を読んで話し合う		○		○	○	○				420
	論理的文章を読んで意見文を書く	○		○	○	○		○			422
	メディアの特色を生かして表現する	○	○		○	○			○		430
	図表から情報を読み取って論じる			○	○				○		434
	複数の観点を生かして理解を深める	○	○	○	○	○	○	○			440
	課題を設定して調べた成果をまとめる	○	○			○	○			○	444